

コロナに負けるな！ 今だからつながりたい地域の絆

コロナ禍における地域福祉の在り方 つながりの再構築に向けた工夫や実践について

田園調布学園大学 人間福祉学部

学部長・教授 村井 祐一

murai@dcu.ac.jp

趣旨

- 現在、人口減少や少子超高齢社会が進行し、**地域共生社会の実現の為**、地域住民が我が事として課題を捉え、主体的に参画することが求められています。
- また、全国的に蔓延している新型コロナウイルスの感染拡大を受け、地域における活動の自粛等により、地域のつながりが希薄化の危機を迎えている状況もあります。
- このフォーラムでは、市民の福祉的課題に対する関心や理解を深めると共に、新型コロナウイルス感染拡大に留意をしながら、地域のつながりや絆を保ち続け、工夫をしながら実践している事例を通じて、**今だからこそ地域のつながりを持ち続けていく意義**や『ざま』における支え合いの地域づくりや一人ひとりが主体的に福祉課題について参画する、気運を醸成することを目的とします。

コロナ禍における地域福祉

- コロナ禍によって、**地域福祉の価値**は変容したでしょうか
- **全国社会福祉協議会の地域福祉の定義**
 - **地域福祉とは、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。**

キーワードは

1. 安心して暮らせる
2. お互いに協力する
3. 地域社会の福祉課題の解決に取り組む

1. 安心して暮らすためには

- **安心とは何でしょうか**
 - 安心とは気掛かりな事が無く、心が落ち着き安(やす)んじること
 - 「安全」が脅かされると、安心の反対語である「不安」が喚起される
 - つまり安全だと安心となる
- **では、安心はどうすれば得られるのでしょうか**
 - 経済的安心、身体的安心、精神的安心、社会的安心・・・
 - 安全が脅かされないこと
- **日本学術会議によると**
 - **信頼**できる人や組織(集団)または社会とのつながりを得る
 - それは**コミュニケーション**を通じて醸成される

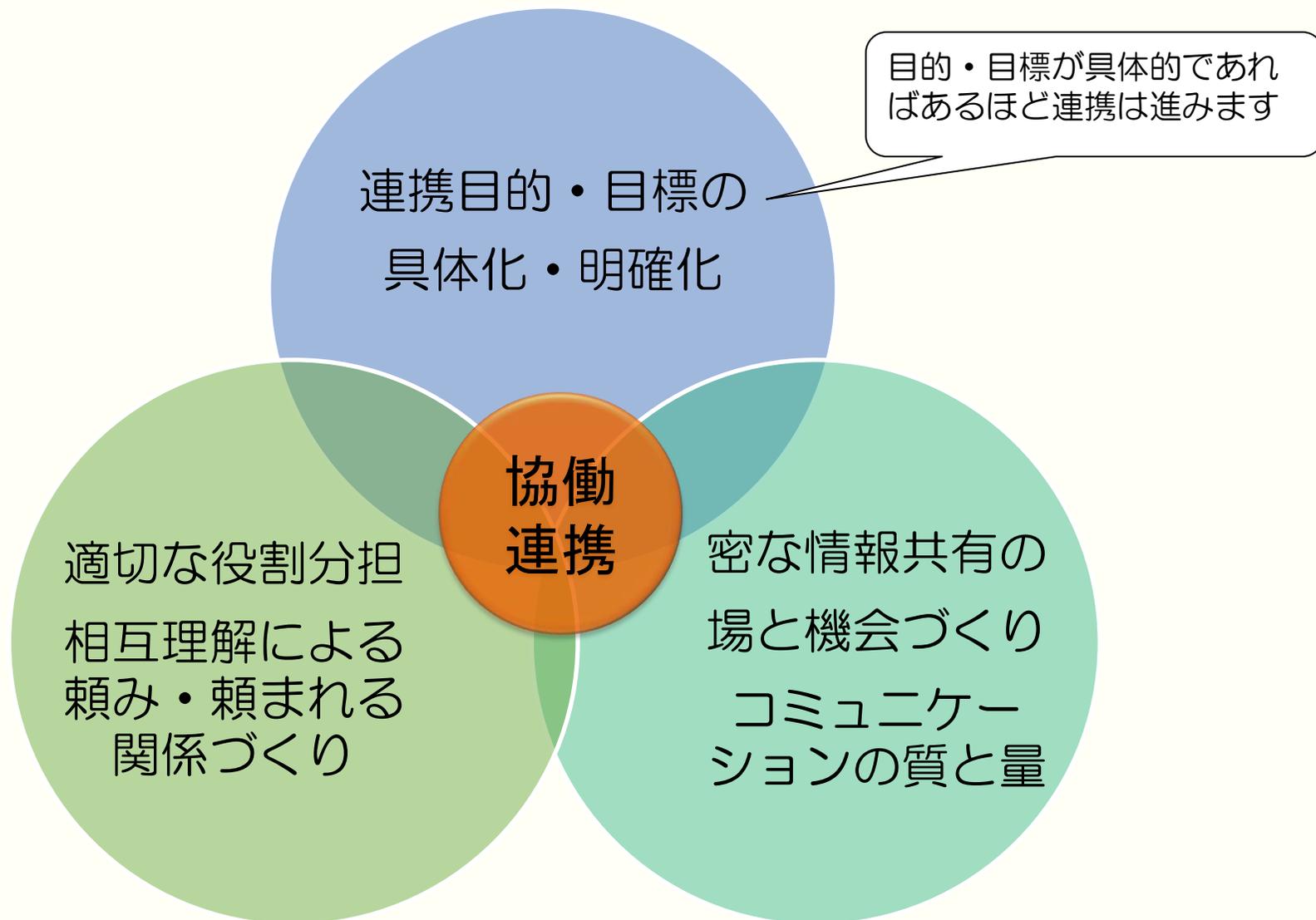
2. お互いに協力する

- **協力とは**
 - 目的に向かって心を合わせ努力すること
- **協働や連携と表現されることが多い**
- **連携とは**
 - 互いに連絡をとり協力して物事を行うこと。
 - 同じ目的で何事かをしようとするものたちが、連絡を密にとり合ってそれを行うこと。
- **協働とは**
 - 同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。
 - 複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することをいう。
 - コラボレーション(collaboration)、パートナーシップ(partnership)

連携・協働とは何か

- 国語辞書で調べると次の様に書かれている。
- **連携**
 - 互いに連絡をとり協力して物事を行うこと。
 - 同じ目的で何事かをしようとするものたちが、連絡を密にとり合ってそれを行うこと。
- **協働**
 - 同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。
 - 複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することをいう。
 - コラボレーション(collaboration)、パートナーシップ(partnership)
 - デジタル「大辞泉」(小学館)より

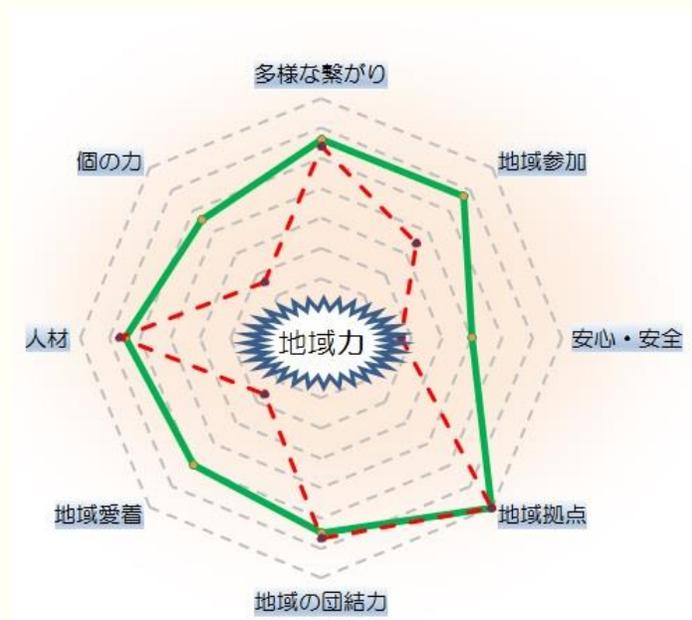
連携・協働のモデル図



3. 地域社会の福祉課題の解決に取り組む

- **地域社会の福祉課題とは何か**
 - **福祉課題が明確にならないと「解決」には取り組めない**
- **福祉課題を見える化させる必要がある**
 - **地域の福祉課題を「見える化させる」ツールとして「ちいきのちからシート」を開発しました。**

<https://www.city.kawasaki.jp/asao/page/0000102805.html>



「ちいきのちから」を見える化してみよう

- <https://cpower.murai-labo.com/mobile/OAKSiCQ>

座間市 地域のちからシート

お名前 ※ニックネーム可
お名前

団体（組織）名（任意）
団体（組織）名

お住まいの町丁
例：〇〇町1（番地不要）

性別
その他

年代
30代

ご職業
会社員・自営業など

居住期間
5～10年未満

多様なつながり
となり近所の人と気軽にあいさつ
ができていますか。

思わない そう思う

1 2 3 4

- ・名前はニックネームで結構です
- ・団体は〇〇自治会や〇〇地区社協、〇〇民児協など
- ・お住まいの町丁は〇〇地区1丁目など

あとは26の設問に回答していただけると地域の課題と対策が可視化されます。



携帯電話のカメラで左
のQRコードを写してみ
ましょう

皆さんの回答結果から得られた地域課題と対策

- 「みんなのちから」
- <https://cpower.murai-labo.com/minna/OAKSiCQ>

<公開中>
このページは一般公開されています。（このメッセージは一般ユーザーからは見えません）

個の力	多様なつながり	地域参加
点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>	点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>	点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>
取組例 ◎ボランティア活動の立ち上げ ◎住民アンケートの実施 ◎健康づくり活動	取組例 ◎サロン、カフェ、茶話会等 ◎団体間交流 ◎NPO立ち上げ	取組例 ◎自治会や地域活動のPR ◎ちよいボラ ◎地域イベントの企画・実施
人材	みんなの地域力	安全・安心
点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>		点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>
取組例 ◎ボランティア活動の立ち上げ ◎趣味を通じたふれあい会		取組例 ◎見守り活動の推進、立ち上げ ◎防犯パトロールの推進、立ち上げ ◎子どもから障害者、高齢者も含めた防災訓練の実施
地域愛着	地域の団結力	地域拠点
点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>	点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>	点数 <input type="text"/> 0 <input type="text"/> 共感度 <input type="text"/> 0 <input type="text"/>
取組例 ◎地域文化を守る会 ◎歩こう会（名所巡り） ◎地域イベントの企画・実施	取組例 ◎町会・自治会などで「ちいきのちからシート」実施 ◎防災活動 ◎防犯活動 ◎見守り活動 ◎地域の出来事の共有化（マップづくり）	取組例 ◎サロン、カフェ、茶話会等 ◎会食会 ◎認知症カフェ ◎支え合い・助け合いマップづくり

性別 年齢



携帯電話のカメラで左のQRコードを写してみましょう

皆さんの考えや気持ちを集める必要がある

- 地域社会の福祉課題を見える化させるためには、皆さんの気持ちや考えを見える化させる必要があります。
- つまり、皆さんが気持ちや考えを「語る」・・・意思表示やコミュニケーションを行う必要があるのです。
- 意思表示やコミュニケーションの方法
 - 顔を見る、直接対話する、アンケートを採る、ワークショップを行うなど様々な**交流**によって実現することが可能です
 - そして、近年ではオンラインでも本格的な交流が可能となっています。

コロナ禍での意思表示やコミュニケーション

- これまで行ってきた交流には困難性が生じています。
- 新しいスタイルでの交流は大きく分けて2+1に整理できます。

1. 安全を担保した上での交流

- 新型コロナウイルス感染への安全対策を講じた上で交流する

2. オンラインでの交流

- LINE、Skype、Facebook、インスタグラムなどSNSでの交流
- Zoom、Meet、Teamsなどテレワーク型交流

3. ICTを用いた意思表示(意見集約)

- オンラインアンケート(GoogleForm、MicrosoftForms)やSurveyMonkeyなど

多くの自治会、町会が前述した交流を開始しています

- **徹底した安全対策を講じた上での交流(つながりづくり)がこれまでに一番近い交流ですが、100%の安全が保障できない課題があります。**
- **このためオンラインによる交流に注目が集まっています。**
- **少人数での簡単な交流の場合**
 - **SNSを用いたメッセージの交流が主流です。**
- **中規模から大規模な交流**
 - **テレワーク型の対面交流が主流となっています。**
- **SNSやテレワークでの交流には多くの方が参加しています。**
 - **80歳代は当たり前、94歳の方も当たり前に参加しています。**
 - **近年は携帯電話(スマートフォン)の値下げが進んでいるため、簡単に手に入るようになり、維持費もかからなくなっています。**

皆さんは、すでにテレワークを体験しています

- 今回の研修会もあえてZoomで実施しています。
- 私のメッセージは皆さんに届きましたでしょうか。
- これまでとは異なる面もありますが、人と人が交流し、顔の見える関係をつくることは十分に可能だと思いませんか。
- 新しい時代のコミュニケーションは、次の時代の当たり前になりつつあります。
- 皆さんの意欲や意志さえ伴えば、十分に実現可能な状況になっているのです。

まとめ

- すでに材料は揃っています。
- 私たちが安心して暮らすために、協力(連携・協働)できる地域を取り戻すことを強く望み、意思表示やコミュニケーションを求めるならば、今回ご紹介した様々なルールやツールを用いることで突破することができます。
- また、コロナ禍を経験した私たちの社会は、今後これが当たり前になっていくと考えられます。
- ぜひ「ピンチをチャンス」と捉え、前向きに取り組んでいただきたいと願っております。

【参考】

- https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/shiminkyodo/jichikai/corona_jichikai.files/0020_20210107.pdf